

授業改善！知的障害特別支援学校 ～プロジェクト型学習の進め方～

このパンフレットは、知的障害特別支援学校において、プロジェクト型学習を通して、児童生徒の資質・能力を高めて、将来につながる力を身に付けさせるための授業づくりの一助となることを目的として作成しています。



広島県立教育センター
マスコットキャラクター
「ラーン」

令和3年3月
広島県立教育センター

プロジェクト型学習

プロジェクト型学習は、課題解決だけが目的ではなく、児童生徒が解が一つでない発展性のある課題に取り組み、解決し、成果物を作成していくという一連のプロジェクトを体験する学習方法です。



現状の課題



未来を描く

現状の課題

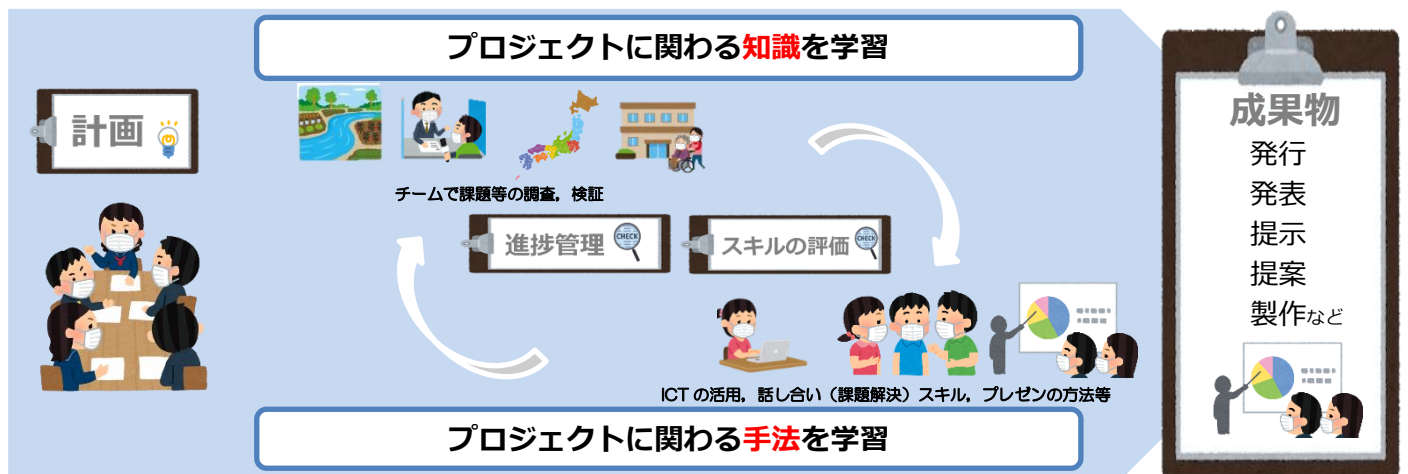
課題発見・解決学習
(課題を解決することが中心)

プロジェクト型学習
(現状の課題と未来のギャップを埋めながら、プロジェクトを遂行していく探究)

プロジェクト型学習の特徴



児童生徒が自ら発見した課題に主体的に取り組み、身近な問題の解決や、プロジェクトを完成させることを目指す過程で、知識及び手法を学習しながら、チームで協働して取り組んでいき、実社会に生かせる成果物の作成に取り組んでいきます。また、他の学習にも応用できる、汎用的能力の育成を目指します。



ただ調べたものを発表するだけでなく、計画段階から児童生徒が考えプロジェクトの進捗管理や評価をしながら進め、実社会に生かせる成果物を発信していくのです。



中学部
センタ 先生

【プロジェクト型学習の特徴リスト】

学習者と学習支援者の役割

- ・児童生徒は、**学習の主体**
- ・児童生徒は、クラスメイトや専門家、地域の人とともに課題に取り組む
- ・児童生徒は、専門家としての立場を担う
- ・教師は、学習活動の**進行役(ファシリテーター)**

プロジェクト型学習の授業構成

- ・学習指導要領に基づいて、明確に学習目標が設定される
- ・カリキュラム構成質問によって導かれる
- ・21世紀型スキルが育成・発揮される
- ・**様々な種類の評価**を児童生徒、教師が共有する
- ・多様な指導方略によって、**児童生徒が意欲的に学習に取り組める**

学びの体験

- ・一定の期間で、関係する**複数の課題や学習活動**に取り組む
- ・**実社会とのつながり**をもつ
- ・児童生徒は、学習成果物を発行したり、発表したり、また提示したりすることで、**学んだ知識やスキルを表現する**
- ・**情報機器の活用によって、児童生徒の学習効果を高める**

知的障害のある児童生徒とプロジェクト型学習

【知的障害のある児童生徒の学習上の特性】

学習によって得た**知識や技能が断片的**になりやすく、**実際の生活の場面**の中で生かすことが難しい。
成功経験が少ないことなどにより、**主体的に活動に取り組む意欲**が十分に育っていないことが多い。

知的障害のある児童生徒の効果的な指導

学習活動への
主体的な参加や経験の拡大を促す

実際の生活場面に即しながら、
繰り返し学習する

継続的・段階的な指導を行う

頑張っているところやできたところを
細かく**認めたり**、**称賛**したりする

実際の生活場面の中で、**具体的に**
思考や判断、**表現**できるようにする

タブレット端末等の
情報機器等を有効に活用する

プロジェクト型学習

学習の主体（児童生徒）

協働・役割

複数の学習活動の場

汎用的能力の育成

実社会に即した課題

多様多重な評価

知識やスキルを表現

情報機器の活用

プロジェクト型学習は、知的障害のある児童生徒の学習上の特性における効果的な指導と親和性が高いと考えます。このことから、知的障害のある児童生徒に対して、知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえたプロジェクト型学習を取り組めば、より主体的な学びを促すことが期待できると考えます。

知的障害のある児童生徒の**主体的な学び**

プロジェクト型学習

知的障害のある児童生徒の学習上の特性



単元開発にあたって

単元計画を作成するに当たって、プロジェクト型学習の特徴をループリックにした、「**単元計画ループリック**」があります。単元開発の指針となりますので、常に立ち返って確認していきます。



※単元計画ループリック

単元計画

単元計画ループリック				
学習支援者の役割				
CHECK	1	2	3	4
プロジェクト型学習の授業構成	1	2	3	4
学びの体験	1	2	3	4

※【参考資料】

単元計画ループリックなどの全ての詳しい資料は、
広島県立教育センターHPで
閲覧できます。



【参考資料】

- ・単元計画ループリック
- ・単元計画シートサンプル
- ・21世紀型スキル
- ・発問の設計
- ・評価ツール
- ・振り返り など

【参考資料】
01 単元計画
ループリック



単元開発のポイント



次の1～4のポイントを押さえて、単元開発をしましょう！



担当する中学部の生徒をイメージしながら考えてみます！



単元計画シートサンプルがあると授業のイメージも付きやすいです。参考にします。

【参考資料】
02 単元計画シート
サンプル



1

資質・能力の特定, 学習テーマの設定



担当している児童生徒に必要な**資質・能力**を特定しましょう。

21世紀型スキル		
イノベーションのための 学習スキル	情報、メディア、 テクノロジーのスキル	キャリア（生活と仕事） のスキル
創造性と革新性	情報活用リテラシー	柔軟性と順応性
批判的思考と課題解決	メディアリテラシー	自発性と主体的な 自己管理
コミュニケーションと コラボレーション	ICTリテラシー	生産性と勤労観
		リーダーシップと責任感

※▲▲▲特別支援学校中学部

「育成したい資質・能力」

- ・協働の意識をもつ力
- ・情報を活用する力
- ・意欲的に学ぶ力



【参考資料】
03 21世紀型
スキル



所属校の中学部の育成したい資質・能力と、21世紀型スキルと合わせて、資質・能力を、「**コラボレーション力**、**課題解決力**、**情報活用リテラシー**」とします。



実社会（生活）の課題、未来の課題と関連付ける**学習テーマ**を設定しましょう。

どのように学習テーマを設定したらよいのですか？



児童生徒が**自分事**にできる課題を発達段階に応じて**社会とのつながり**を考えながら設定します。

例)「10年後、わたしたちはどのように〇〇に関わるべきか」

(発達段階に応じた社会とのつながり一例)

小学部：家庭・地域

中学部：地域、市町村

高等部：県 など



例えば、「10年後、どのように〇〇に関わるべきか。」「今の私たちにできることは何か。」という問いから関連付けると考えやすいでしょう。**SDGs**と関連付けた課題も考えられます。

生徒は、余暇等で、地域の資源を多く活用しています。

地域（住み続けられる街づくり）を学習テーマにすると、自分事として考えやすいです





発問を設計しましょう。学習を設計していく上で、本質的質問、単元質問、内容質問からなる、カリキュラム構成質問があります。

発問ってなんだか難しそう。大事なことは？



特に単元質問は、単元を通して児童生徒の経験や考えから導いていく、必要な質問です。単元を通した最初の発問なので、内容質問との関係を比べながら学習を設計する必要があります。

カリキュラム 構成質問

単元例：総合的な学習の時間（中学部）「▲▲▲楽しいプロジェクト」

本質的質問

【幅広く深い思考を促す】
・複数の教科、単元を包括する質問
・一つの明確な答えはない

例：10年後、わたしたちはどのように、▲▲▲の地域でかかわっていくのか。

単元質問

【単元の学習目標】
・単元を通して考えを深めていく質問
・一つの明確な答えはなく、経験や考えから導いていく

例：▲▲▲の地域で「楽しく」暮らすために、今のわたしたちに何ができるだろうか。

内容質問

【単元の中で理解・習得する知識・技能、情報】
・具体的な学習・探究活動に結び付く質問
・明確な答えが存在する

例：▲▲▲の地域での「楽しい」ことって何があるだろうか。 など

【参考資料】
04 発問の設計



なるほど。プロジェクト実行中も、単元質問に立ち返ってプロジェクトを遂行していくのですね。発問を構成すると、指導者も今何を生徒に考えさせる時間かを確認することができますね。

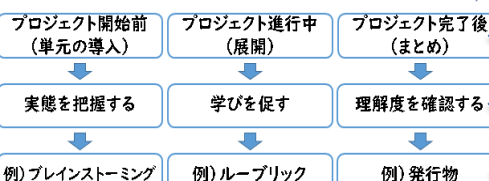


発問を設計した後、**児童生徒が分かる表現等に置き換えていく**ことも大切です。



評価を検討しましょう。「評価のタイミング」と「評価ツール（ルーブリックなど）」の検討が重要です。

単元の学習の流れ



評価のタイミング

評価の目的

評価ツール

結果だけでなく、実態や**プロジェクトの経過（プロセス）**を丁寧に評価することが大事なんですね。

プロジェクトの進行中に、ルーブリック評価を例として挙げられていますが、どのように活用したらよいのですか。



【参考資料】
05 評価の構想



例えば、プロジェクト進行中の課題解決力を評価するのであれば、課題解決ルーブリックがあります。【参考資料】を確認してください。これを、**児童生徒の個々の実態に合わせて作成**します。



【参考資料】
06 評価ツール



教師と児童生徒と一緒に評価することで、次の学習の目標設定やプロジェクトの改善を考えることができます。

課題解決 ルーブリック				
	4	3	2	1
教師用	課題を解決するために必要な情報を、いくつかの正しい情報源から得ている。	課題を解決するために必要な情報源を、一つの情報源から得ている。	課題を解決するために必要な情報とそうではない情報を区別している。	課題を解決するために必要な情報を特定できていない。
生徒用	「私たちができること」を、○○と○○(○○と…)から探することができる。	「私たちができること」を、○○から探することができる。	「私たちができること」と「できないこと」を、分けることができる。	「私たちができること」と「できないこと」を、分けることができない。

課題解決ルーブリックを確認すると、課題解決する姿がイメージできました。生徒用は、個々の生徒の実態に応じて作成していきます。また、**生徒の分かる言葉や、イラスト等を用いて評価**できるようにします。





従来の授業を、より「**学習者中心**」にしていく**学習活動の設計**が重要です。

一体どのような学習活動が考えられるのですか。



学びを深め、広げていくことが大事です。プロジェクト型学習の特徴の「学びの体験」を参考にしましょう。**単元計画ルーブリック**を確認しながらイメージをもち学習活動を設計します。

学びの体験

- ✓ 一定の期間で、関係する複数の課題や学習活動に取り組む
- ✓ **実社会とのつながり**をもつ
- ✓ 児童生徒は、学習成果物を発行したり、発表したり、また提示したりすることで、学んだ**知識やスキルを表現**する
- ✓ テクノロジーは、児童生徒の学習効果を高めるために利用される

【参考資料】
01 単元計画
ルーブリック



例) 単元開発ルーブリック・学びの体験（テクノロジー）

4	3	2	1
ICTツールが、学習者の学びの体験をより深めたり、リアルにすることを支援したりするために効果的に活用され、さらに、学習者が自らの学習履歴をふりかえり、成長を確認することや、学習支援者が学習履歴の管理や個別のフィードバックなど、学習者一人一人の学びの充実と個別最適化のために使用されている。	ICTツールが、学習者の学びの体験をより深めたり、リアルにすることを支援したりするために効果的に活用され、さらに、学習履歴の管理や個別のフィードバックなど、学習者一人一人の学びの充実と個別最適化のために使用されている。	ICTツールが、学習者の学びの体験をより深めたり、リアルにすることを支援したりするために効果的に活用されている。	ICTツールが、効果的に活用されていない。

ICTツールは、知的障害のある生徒の学習上の特性や実態に応じて活用したいです。



動画等でイメージをもたせたり、物事を伝えたりする代替えとなるツールにもなります。

学習者中心ではありますが、児童生徒に丸投げになっては本末転倒です。教師のすべきことは何ですか。



教師は、児童生徒が学習者中心の学習活動を進めるためには、**「進捗管理のサポート」「必要なスキルの明確化」「振り返りの促進」**を行っていくことが重要です。

「進捗管理のサポート」

※児童生徒が見通しをもって主体的に進められるしかけ

役割、タスク、
必要な準備の視覚化・共有化

「必要なスキルの明確化」

※資質・能力を具体的な要素に分析し、どこまで児童生徒に委ねるべきか何を準備すべきか明確にする

例) 情報活用スキル
収集・評価・活用の要素に分けて分析

【参考資料】
07 進捗管理の
サポート



【参考資料】
08 スキルの
明確化
振り返り



「振り返りの促進」

※児童生徒が、自己評価や学習管理をしていけるような振り返り（例：発話思考）

児童生徒に自分が何を学んだのか、どのように学んだのか、なぜ、つまづいてしまったのか、つまづいたことにどう気付いたのかなどを言葉等で発することで振り返らせる

例① 小学部 第6学年

カリキュラム 構成質問	【本質的質問】他者のことを考えるとはどういうことだろう。 【単元質問】お年寄りの方のために、自分たちは何ができるのだろうか。 【内容質問】お年寄りの方が好きなことや苦手なことって何だろう。	など
----------------	---	----

学習上の特性に応じた ICT の活用例

動画：状況の判断，相手意識がもちにくい場合，動画により，イメージをもたせる。

録画：言語表出が困難でも、イラストや写真、文字を組み合わせ、相手に自分の考えを伝える。

評価例

育成されるスキル

➡コラボレーション

評価ツール

➡ループリック

– 6 –

例② 中学部 第2学年

実態	・知的障害単一障害学級，療育手帳所持（A～B）であり，ダウン症候群，自閉症スペクトラム障害の診断がある生徒もいる。 ・発語はある。絵カードや写真などから，「〇〇が〇〇した。」と自分の経験したこと得意なことを発表することができる生徒や，地域の行事に積極的に参加し，「〇〇が楽しかったです。」などの文で表現することができる生徒がいる。 ・自力通学したり，地域で，一人で買い物をしたりすることができる生徒がいる。		
資質・能力	コラボレーション力，課題解決力，情報活用リテラシー，知識・技能		
学習テーマ	関連SDGs：3 すべての人に健康と福祉を，11 住み続けられるまちづくりを，八本松の地域で私たちにできること（地域発見学習）		
各教科等	総合的な学習の時間	総時間	35 時間
単元名	「八本松楽しい！」プロジェクト～もっと楽しい八本松にしよう～		
単元の概要	中学部での既習事項と，地域の課題を関連付けて，地域の一員として，よりよく過ごすために，中学部段階でできることに気付かせる。		
単元目標	・『八本松』の地域で楽しく過ごすためには，どうしたらよいか。」という課題から，アンケート，インタビューなどから課題を整理する活動を通して，地域の課題を理解する。 ・『八本松』の地域で楽しく過ごすためには，今の私たちには何ができるか。」という課題を，今までの既習事項などから，今の自分たちにできることを自ら見付け出していくことができる。 ・『八本松』の地域で楽しく過ごすためには，今の私たちには何ができるか。」という課題から，仲間と協力し，実践し，よりよいものに改善していこうとする。		

カリキュラム 構成質問	【本質的質問】10年後，わたしたちはどのように，八本松の地域でかかわっていくのか。 【単元質問】八本松の地域で「楽しく」暮らすために，今のわたしたちに何ができるだろうか。 【内容質問】八本松の地域での「楽しい」ことって何があるか。
----------------	--

学習段階	学習活動
導入	「『楽しい』ことって何があるか。」 ○今までの活動の写真などから「楽しい」を整理する。
展開1	「『八本松』の『楽しい』ことって何があるか。」 ○アルバム，インターネット，資料等から整理する。 ○校内インタビュー（投票式）から整理する。
展開2	「もっと楽しく過ごすには，どうしたらよいのか。」 ○再度，情報収集及び課題の整理・分析する。
展開3	○調べたものを市役所（施設）の人に報告及び質問する。 生徒：「八本松では，～が楽しいです。～があるといいです。」 市役所（施設）の方：「でもね。■■が課題なんだ。」 例）地域清掃が行き届かない，畑が減っている，施設はあるけど行事がない。 生徒：「そうなんだ。」「このことなら，できるのでは。」
展開4	「八本松の地域で『楽しく』暮らすために，今のわたしたちに何ができるか。」 ○今までの学習を振り返り（ノートや学習ファイル，写真など）できることをまとめる。
展開5	○市役所（施設）の人に報告・評価 ○これからも継続的に実践できるものを整理する。
まとめ	○できたこと，これからやることを学校に投げかける ・実行（次年度へ続く…）

学習上の特性に応じた

ICTの活用例

資料等からの整理：

インターネットだけでなく，今までの写真等や成果物等をクラウド上からPC，タブレット端末で検索し，情報収集しやすくする。

インタビューの整理：

グーグルフォームや，表計算ソフトを利用して，データの整理・分析しやすくする。

評価例

育成されるスキル

➡課題解決力

評価ツール

➡ルーブリック

課題解決 ルーブリック

	4	3	2	1
教師用	課題を解決するために必要な情報を，いくつかの正しい情報源から得ている。	課題を解決するために必要な情報源を，一つの情報源から得ている。	課題を解決するために必要な情報とそうではない情報を区別している。	課題を解決するために必要な情報を特定できていない。
生徒用	「私たちができること」を，〇〇と〇〇（〇〇と…）から探すことができる。	「私たちができること」を，〇〇から探すことができる。	「私たちができること」と「できないこと」を，分けることができる。	「私たちができること」と「できないこと」を，分けることができない。

例③ 高等部 第1学年

実態	・知的障害単一障害学級，療育手帳所持（B～㊸）であり，ダウン症候群，自閉症スペクトラム障害の診断がある生徒もいる。 ・教師の発問に対して活発に意見を言おうとするが，質問の意図を理解していないことがある。また，初めての経験に対して，萎縮することもある。ICT等を活用しながら，生徒に分かり易く説明して理解を促し，安心感をもたせるように配慮している。 ・すべての生徒が，放課後等デイサービスなどの福祉サービスを利用している。		
資質・能力	コミュニケーション力，情報活用リテラシー，ICTリテラシー，知識・技能など		
学習テーマ	関連SDGs：3 すべての人に健康と福祉を，11 住み続けられるまちづくりを		
各教科等	総合的な探究の時間	総時間	16 時間
単元名	自分の未来を描こう～10年後の自分の生活に必要な福祉サービスはどのようなものか～		
単元の概要	高等部段階においては，卒業後の自立や社会参加において必要な知識・技能及び態度を，特に育てていく必要があり，将来の生活をよりよくしていくために，自分の生活に必要な福祉サービスはどのようなものか学習する。		
単元目標	・卒業後の自立や社会参加において，自己を理解し，自分の生活に必要な福祉サービスを理解する。 ・自分をとりまく社会の状況を知り，自分らしい生き方を探り，自分の考えを伝えることができる。 ・人とつながる大切さを学びながら，卒業後の生き方について考えようとする。		

カリキュラム 構成質問	【本質的質問】10年後，わたしたちは，どのように福祉サービスとかわかってくるべきか。 【単元質問】必要な福祉サービスはどうすれば見極められるのだろうか。 【内容質問】あなたは現在，どのような福祉サービスを利用していますか。	など
----------------	--	----

学習段階	学習活動
導入	「あなたは現在，どのような福祉サービスを利用していますか。」 ○地域の福祉サービスを探る。 ・自分が利用している福祉サービス ・地域の福祉サービス（種類，相談窓口など） ・卒業生の進路と生活（進路研修会と関連）
展開1	「自分に必要な福祉サービスを見極めるためにはどのような方法があるのだろうか。」 ○インタビュー（撮影）をして必要な情報を整理する。 ・事業所の職員や，働いている卒業生からの聴取 ・市役所など役場，ハローワークでの聴取
展開2	○集めた情報を整理し，スライドにまとめる。 ・キャリアマップ（10年後）の作成 ・スライドの作成
展開3	○10年後に利用したい福祉サービスとその理由を発表する。
まとめ	○他の生徒の発表を踏まえ，将来の生活について考える。 ・キャリアマップ（10年後）の加筆・修正

学習上の特性に応じた

ICTの活用例

撮影：相手の話を聞き漏らした場合でも，繰り返し動画を見て，情報を整理することができる。

スライドの作成：言語表出が困難でも，イラストや写真，文字を組み合わせて，相手に自分の考えを伝えることができる。

評価例

育成されるスキル
 ➡コミュニケーション
 （説得力のある発表）
 評価ツール
 ➡ルーブリック

説得力のある発表 ルーブリック

	4	3	2	1
教師用	明瞭な言葉で，滞りなく，人を引きつけるように発表することができる。	明瞭な言葉で，滞りなく，発表することができる。	滞りなく，発表することができる。	何度も発表が滞る。
生徒用	はっきりした言葉で，話を止めることなく，相手の様子を時々見ながら発表することができる。	はっきりした言葉で，話を止めることなく発表することができる。	話を止めることなく発表することができる。	何度も発表が止まる。

このパンフレットは、次に記す株式会社キャリアリンクが実施した研修の内容と資料に準拠し作成したものです。また、パンフレット内で紹介している単元開発例（小学部・中学部・高等部）は、研修の参加者の成果物です。

令和２年度 「ＩＣＴを活用したプロジェクト型学習の実践に向けて」

実施事業者：株式会社キャリアリンク

当該研修は、Intel®Teach Elements プロジェクト型アプローチをベースとして構成されています。